

書籍のご案内

『日本文化原論 永続思想 主体性学』

真なる調和への道七色の虹の架け橋(著横山俊一)



近日、アマゾンで
販売予定です。

本体価格 1,780 円
(税抜き)

編集
美粋書房
発行



ご挨拶

文化慣習

1)縁起物制作と文化観

1-1 因縁生起と思想世界観

幼少の頃より縁起物制作と販売に従事し民間の会社に約 8 年間勤務し文化論の執筆を始めて約 10 年間が経ちました。「家内安全と商売繁盛と健康長寿」という基本祈願に対しこれを遂げる方法的な思索と施策が続き、表現にも生命観らしき性質が形成され広くご案内してもよろしい段階に到達したかの認識が起こります。哲学文化論を学校教育の科目構成へ及ぼせる働きかけをしている中にあります。確たる領域観と稼働と実践力を太めたく日々執筆が続けられます。2013 年 12 月より執筆をはじめ、2014 年 5 月に「日本文化原論 真なる調和への道 神からのブラボォー」を出版し、以後、改善を重ね本書の形成に至ります。多くの人々から良い力を賜り衷心より感謝申し上げます。意識的か無意識に、因縁生起という感覚が備わり思想世界観の産出へ及ぶ。

1-1-1 因縁生起

1 吉凶の前触れ。兆し。前兆。「縁起がよい」2 物事の起こり。起源や由来。3 社寺・宝物などの起源・沿革や由来。また、それを記した書画の類。「信貴山(しぎさん)縁起絵巻」4 仏語。因縁によって万物が生じ起こること。出典：デジタル大辞泉(小学館)

2)文化思想の執筆活動

昨日(2022.8.1)、近所のコンビニの ATM でお金を引き出そうとした所、キャッシュカードが使えない状態になった。前にもこのような経験をした事がある。頻繁にあるわけではない。当方は日ごろ文化論の執筆活動をしている。良好な社会性と生態を作る事を求め、書いた内容をメディアに掲載する。さらに、各種の教育機関に、このような内容の科目を作るように、働きかけをしている。哲学文化科目などと題し、生命観や人間観、などという根本的な概念の提起と稼働の規則性を促進させるという創造力であると認識する。メディアの掲載は、広く社会への提案作用を生み、産業経済、政治行政、教育文化などという各特定領域へ概念を示し納得感や共感性が進めば、こうした根本概念を反映して個別特定現象の性格を作るという因果性が産み出される。メディア掲載と各種特定領域の価値基準と稼働性に及び、良好な社会性や生態を作る事に回る。教育機関への基盤性科目の確立を図り、人間と現象の起源性から良好な感性や発想と思考と行為の習慣性を作り、生命や人間性という性質が作りこまれ、実社会における活動と秩序の良性へと連なる。2013 年 12 月頃から執筆活動を習慣とする。この時期から何やら論文を外部からサイバー犯罪による不正な手段による監視や論文の盗みや悪性ウィルスをパソコンに加え、これまで約三台のパソコンも破壊されている。大手メディア、テレビ、新聞、政治、経済等の領域で論文の引用をせずに用いられているという認識を常態する。そして、冒頭に申し上げたような現象が発生する。権力や財力、技術力の暴走的な活用と判断している。ある程度、主犯格となる対象も絞り込まれる。日頃の習慣や長年の規則性から健全な制御性を欠く発想や手段に外れる性格が産み出される。あるべき生命観や人間観や創造観の導出と一般傾向側の抽出に及ぶ。このような内容を論文という形に纏め良好な言葉や概念、思想世界観を表すことに及ぶ。

3)過程と産出

3-1 活動観と方法的、分化と統合

適当な思考の枠組みとして「理念と現況と方法と検証と改善と持続」という観点と相関と習慣として活動観を生む。実際はいずれの要素にも方法的性を内在するように感じる。個々の生い立ちや歴史性、成長段階等からどのような側面に力の割合が向けられるか、程度の違いを生む。完結的一巡の観点を持って分散と統合の適正に向けられる。

3-2 主要な産出：文化観の導出

以上のようにして、根本且つ大局観と個別特定性の相関と体系の認識を生む。根本且つ大局性を主要な関心に絞り、概念形成と稼働と検証と改善と持続の系を有する哲学文化領域を生む。文化観という概念導出に絞り、良好な産出を遂げることに当該創造の範囲が生まれます。

人間と生態の健全と永続という万人集約性の理念の導出と実践を図る思想体系を生む。主体性原理と具象化し精査する。変らぬ土台的基礎と全体性を構成する。

3-3 執筆過程と産出性

文章執筆は、後半から前半へ向け思索と施策と改善を重ね更新が成されます。前半部分へ行くほどに最新の基準概念を生み「まとめ」に集約されます。「過程と産出」の関係が形成される。

まとめ、一部から五部

A5 491 ページ 白黒 464 P カラー27 P

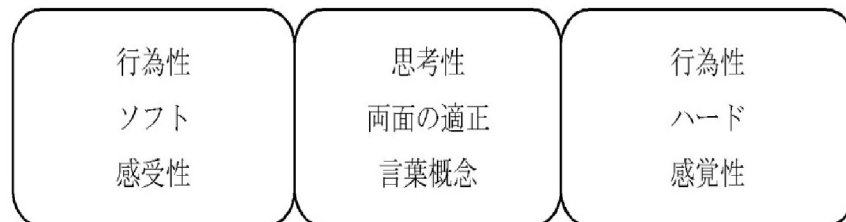
文字数 193.238 ほど

哲学文化政策：永続思想と主体性学

1)健全な哲学文化

1-1 ハードとソフト

寺社仏閣などというハードの施設にエネルギーを注ぎ、思想や世界観、教義という生命観や価値観を訴求する行為が萎むと、健全な感性の出現と外形性の弱まる感覚的力の訴求と生存と成長を求める宗教の実態が現れる。身体面と経済性の感覚が強まり、健全な感性と観念の弱まる表現と創造性を基調とする活動の質実が掴み出される。



「言葉の羅列と混乱的な表現という歪なソフト性の偏り、」と「ハード性の効果を訴求し、外界を支配従属させる物理依存型の発想と体質」という両極の生の歪性を伺う。間の観点が起これ根と柱と大局に繋がる芯となり得る集約性の概念を作る事に回る。



1-2 根源性と二次三次の基準と運用

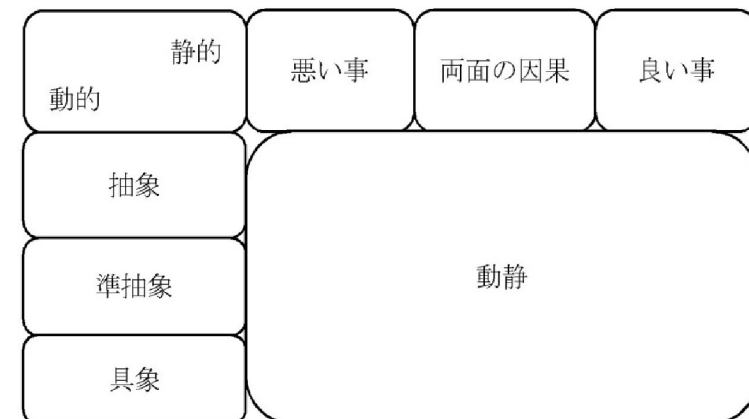
宗教や教育、政治や経済などという現象と抽象観に対して、感性と観念と精神と身体の相関と規則性という変わりづらい人間や生命を映し出す根本的な観点を導出し、創造性の実態性を根本的な観点から浮かび上がらせる事にあって、変わらぬ良質を存続させる具体策が進む。

1-3 二極性と間の観点

生滅という二極的な判定が強まり、「瞬間的・直感的な生存本能と弱肉強食の動物世界の進行」や「言葉や概念を外界を欺く道具として用いる詐欺性という根の病んだ陰気質な世界の進行」に対して、間に現れる適正な観点を引き出し、最良的な生に連ねるエネルギーが起こる。生滅現象に矛盾性の感性が起こり、矛盾を調和に及ぼせる思考や思索が重なり、思想世界観などという産物を生む。

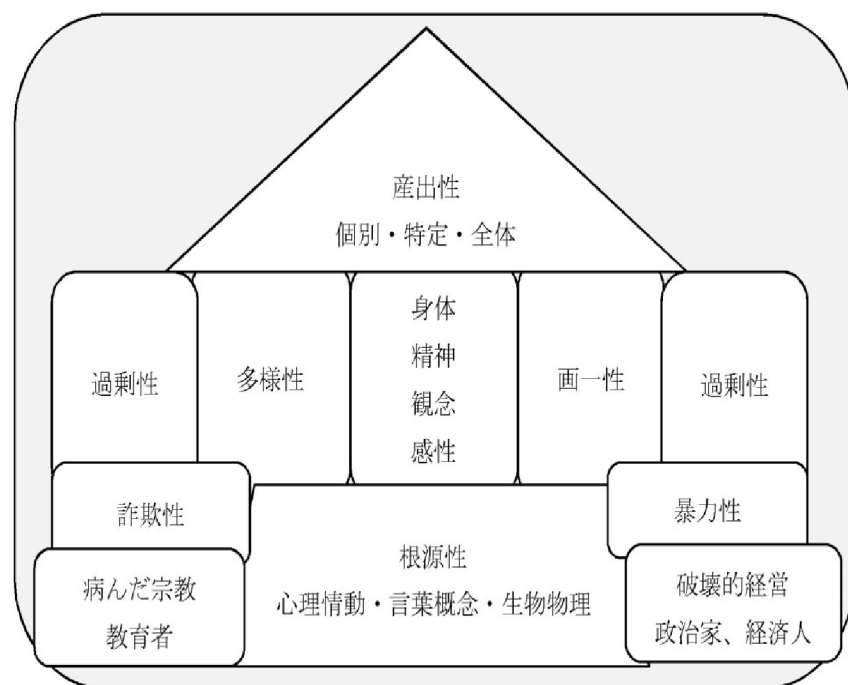


創造の包括観



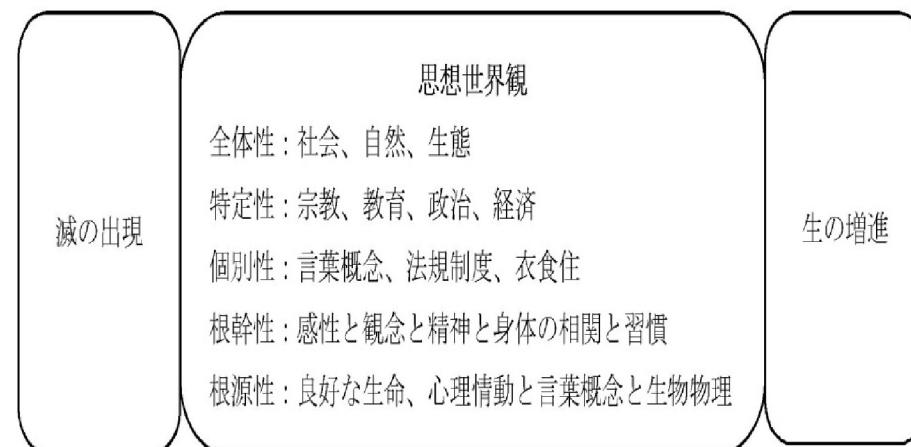
1-4 画一と多様

組織の大規模化と一元的な統制が強まり、無思慮無思考のロボットや人形という性格の人間性が作られる。逆に、個々の利益追求の感覚が高まり、無秩序混乱の分散性を広げる多様性という現象が生まれる。思想世界観を作る力が減退し短変数の因果と即効的な利益追求を高める感覚性の強まりと感性の歪化した人間と社会性と生態系に向かう事について健全な生命や人間性が残り、歪性への補正の力が現れる。



1-5 思想世界観

健全な感性を起源に持ち、思考と言葉の形成という工程を通し、ある程度、現象の纏まりを有する因果の総体を集約し、思想世界観の原型性を引き出す作為を生む。長期性の基準概念や尺度に備わり、中期性や短期性などという現象と観点の適正に連ねる操作性が進む。



健全な生命が言葉や概念、思想世界観などという形になって、表面化し、精神と身体の相関と制御に及ばせるという変わりづらい長期原理性が作動する。このような作用が萎むほどに、歪な宗教現象が広がる。基礎土台性の崩れた宗教、教育、政治、経済などという二次三次の現象を招く。

1-6 教養・人格、基礎基盤性科目

こうした根本原理性の観点を形成し、長らく脳裏に刻まれ発想や思考と作為に連ねる創造性や人間性に教養のある生命や人間や領域の特徴が形成される。知識が多い事が、教養であるか。様々な体験を通し、反省と改善と実践の習慣を存続し、集約性の価値概念を引き出し、稼働に反省させる性格に、教養や人格などという概念と中身の質実を実感する。妙な偏差値教育が偏り、徳育や体育の側面が減退すると、バランスの悪い習慣と歪な性質を広げ、「無教養、恥知らず、無節操、露出狂、無秩序、慢性的犯罪症」などという現象を生む。根源性の狂った生命と人間が量産される。健全な哲学文化性を求め、基礎基盤性の科目を確立する態度が進む。

目次

まとめ	1	4)運用性	45
ご挨拶	2	二編 科目構成	47
文化慣習	2	はじめに	47
1)縁起物制作と文化観	2	1)哲学文化科目	47
2)文化思想の執筆活動	3	2)広義の宗教	51
3)過程と産出	4	3)謙虚な態度とは？	53
哲学文化政策：永続思想と主体性学	5	一章 基礎基盤性科目	54
1)健全な哲学文化	5	1)目的と方法と結果	54
2)特定観点	9	2)欲求と序列	54
3)根本観点と評価性	10	3)現象と反省と改善の蓄積	54
4)施策性・技術性	11	4)思想世界観	56
一編 基礎基盤性	26	5)効用・真相真価	58
序章 はじめに	26	6)展開性：理念と組織体制と稼働	59
1)哲学性・宗教性・生命観	26	二章 学術科目構成と実践	62
2)良好な生命	28	1)思想世界観と実践性	62
3)思想世界観と学術と実世界の適正	31	2)並列と循環	62
4)主要な創造範囲	35	3)健全な生命と人間と生態の実現	64
一章 根本且つ大局と個別特定	36	三章 哲学文化科目	65
1)具象観点	36	1)基盤性科目	65
2)準抽象・抽象	37	2)基礎と専門	68
3)根本性	38	3)根本的観点	71
4)長期原理性	40	4)創造力の包括観と主体性像	72
二章 長期政策：人間性と生態系	41	5)授業概要と計画	73
1)特定観点の限定	41	一部	85
2)過程性	42	一編 永続思想と主体性学	86
3)原理性と見識の集約	43	一章 基礎基盤性科目の中心的な関心	86
		1)基本観点と文脈	86
		2)動静概念と規則性	88

3)神格化の懸念	90
二章 総論	92
1)基礎基盤性科目	92
2)主体性学	93
三章 各論	96
1)抽象観点	96
2)具象観点	97
3)根本原理性	98
4)主要概念	100
二編 永続思想主体性学 2	106
はじめに	106
1)今日的な時代認識	106
2)問題と好感、課題と施策	106
3)当該創造性の範囲：哲学文化政策	106
一章 背景と全容	109
1)哲学文化領域の性格	109
2)国家観	113
3)思想世界観	114
4)特定観の導出、基礎観点	115
5)基礎原理と応用	116
6)根本且つ大局と個別特定性	116
二章 哲学文化観	118
1)哲学文化観の形成過程	118
2)哲学文化観	119
三章 主体性像の導出と稼働	122
1)内面性と外形性	122
2)基礎基盤性の科目	125
3)基礎基盤性の充実	129

三編 永続思想と世界観	131
一章 永続思想世界観 1	131
1)創造力一般性と特定性	131
2)根本且つ大局観	133
3)中長期原理性	135
二章 永続思想世界観 2	136
1)憲法と根本原理	136
2)特定理念	137
三章 永続思想世界観 3	140
1)人間の基礎的法則性の認識	140
2)長期原理性(動的文脈)	141
3)長期原理性(静的方式)：普遍的不変と個別特定	144
4)まとめ	146
四章 永続思想世界観 4	147
1)永続の成長	147
2)生命と人間と生態	151
二部	159
一編 哲学文化政策	160
一章 哲学文化政策	160
1)根源性：人間平等の理性	160
2)根幹性	160
3)人間の外形性	162
4)個別性・特定性・職業性	163
5)物理性への依存と高まり	164
6)哲学文化政策	164
二章 思想世界観	165
1)労使関係	165
2)哲学文化政策総論	166

3)永続思想 主体性学	168
4)真なる調和への道 七色の虹の架け橋	174
三章 長期原理性	175
1)今日的な傾向と現況認識	175
2)問題性の認識と適正策の導出	176
3)マクロ政策と目的設定(長期中期短期)	178
4)根本且つ大局観と個別特定性	180
四章 永続思想と主体性学	184
1)問題認識と改善施策	184
2)根本原理性と運用 1	187
3)根本原理性と運用 2	189
4)永続思想・主体性学	192
二編 長期政策	193
一章 哲学文化・宗教	193
1)創造法則	193
2)創造体系	194
3)主題性：なにを	195
4)根本原理性の抽出	196
5)根本性と全容性	196
6)抽象集約概念	198
7)哲学文化	199
8)良好な宗教	200
二章 長期原理性	202
1)感性と思考と行為、自由と制約	202
2)循環系：均衡と成長、平等と成長、	202
3)生態原理	202
4)創造法則	203
5)動静観	203

6)標準と過不足	203
7)客観評価性と稼働性	204
8)偏差値教育の功罪点の認識	204
9)私的特殊性	205
10)情報革命・金融・グローバル化	205
三章 長期政策：思想世界観	207
1)長期性の政策	207
2)宗教観・哲学文化観	209
3)中期性の指標と算出と操作性	210
4)短期的・個別的・因果性	211
5)長期性の指標	212
三部	215
一編 基礎基盤性科目	216
一章 総論	216
1)潮流：物質的豊かさの功罪	216
2)普遍的不変の真理：言葉概念と身体性	217
二章 根本原理性	218
1)あるべき人間性：外界認識と自己認識	218
2)生命観・人間性、創造性、社会性と自然観、生態系	219
三章 詳述	221
1)生命観と国家観	221
2)根本原理と各種対象の相関	221
3)理論と歴史、動静の適正	221
4)経営と品質、政治と教育、	222
5)根の歪な作為	222
6)力と活用的一般原理	223
7)言葉概念・制度法規・固有技術、習慣と性質	223
四章 哲学文化の総合体系	224

1)文化交流と基盤性科目	224
二編 哲学文化政策	225
一章 哲学文化政策	225
1)コミュニケーションの基礎	225
2)現況性の認識	229
3)各面の分析	231
4)適正策の導出と稼働	232
二章 領域性の原理	234
1)広狭の普遍的不変性	234
2)過程性	236
3)根本原理性：領域性の原理	238
三章 思想世界観	240
1)哲学文化の生産性(独立性・領域性)	240
2)哲学文化的生産と交流	245
3)信仰とは、縁起とは	247
四部	251
一編 哲学文化	252
一章 哲学文化政策	252
1)特定現象の観測と評価分析、及び哲学文化政策	252
2)普遍的不変の標準概念	254
3)文化文明観の導出と運用	259
4)根本性と一般性と個別特定性	263
二章 人間学	265
1)人間学	265
2)哲学文化の創造力	268
3)主体性と領域性	272
4)哲学文化性の意義	277
5)同一性の尺度	279

6)広義の宗教	283
二編 創造の要約	286
一章 概念と稼働と検証	286
1)不動的理念性、普遍的理念性	286
2)現象の形成	286
3)問題現象の出現	287
4)因果性の解明	288
5)適正化の作為	290
6)教育観	294
二章 概念形成	298
1)概略的現象	298
2)具体の現象(精査性)	299
3)日本文化原論 永続思想 主体性学	302
三章 概念と現象	303
1)哲学文化政策	303
2)基盤性科目と専門科目	305
3)思想世界観	306
三編 哲学文化政策	310
一章 動静観	310
1)動静概念	310
2)時代背景と社会ニーズ	314
二章 哲学文化政策	315
1)起源性：特定現象と因果分析	315
2)創造力の包括観と科学性の認識	316
3)理想性の導出	317
4)技術性	320
五部	321
一編 根本的概念	322

一章 宗教・哲学・文化	322	4)生命・人間・創造観	375
1)宗教性・哲学文化性	322	5)根本性と対象性と適用	375
2)思想世界観	325	6)社会観	376
3)文化性と世界観	329	7)産業経済観の高まり	376
二章 哲学倫理・文化観	332	8)学問・学術	376
1)哲学文化領域	332	9)長期原理性	377
2)倫理学	335	10)根本且つ大局観と個別特定観	377
3)長期周期性	339	11)根源・根幹・産出	378
二編 当該創造力の性格と範囲	344	12)思想世界観	379
一章 根本且つ大局性の原理	344	二章 哲学文化観	380
1)抽象原理性	344	1)普遍的不変性と個別特定性	380
2)基礎基盤性科目	347	2)感性与観念と精神と身体の相関と習慣	380
3)思想世界観の原型	351	3)人間観と生態観	381
二章 思想世界観とは	353	4)哲学文化観	381
1)はじめに	353	三章 日本的なる性格	383
2)外側：動的文脈	353	1)特定現象	383
3)内側：特定創造力	355	2)適正化の原理と稼働	383
4)内外性	357	3)哲学文化観	384
三章 主要内容	359	4)当該創造力の要点	386
1)永続思想と主体性学	359	5)日本的なる性格	387
2)思想世界観の骨子	363	四編 はじめに	391
3)哲学文化性	368	一章 長期原理性	391
4)主要概念図	371	1)特定現象	391
三編 永続思想と主体性学	374	2)問題性の認識	391
一章 思想世界観	374	3)適正策の導出	392
1)特定現象	374	4)健全な感性与制御	395
2)習慣性：個別・特定・全体・根源・根幹・総枠	374	5)思想世界観	396
3)政治観・国家観	374	二章 普遍的不変の世界観	400

0)はじめに	400	1)教育概念	441
1)基礎基盤性科目	401	2)主導性と一般原理性	441
2)思想世界観	405	3)活動法則：動静観	442
3)根本思想	408	4)概念形成	443
三章 宗教と創造性	411	5)哲学文化性	443
1)宗教	411	四章 長期原理性	445
2)抽象理論性：皮膚感覚の宗教観	412	1)永続思想と主体性学	445
3)具体の施策性：生産活動	412	2)基幹性の基準	448
4)宗教の質実	414	3)侮辱罪	449
四章 領域観・世界観	415	4)健全な自由主義	451
1)当該創造性	415	5)七項性	452
2)特定現象	415		
3)観測と評価分析	416	図表	454
4)提案性	417	1)総合	454
五編 哲学文化	421	2)動静概念	455
一章 思想世界観	421	3)根本性	457
1)広狭の長期原理	421	4)静的概念	459
2)長期原理性	424	沿革	469
3)思想世界観の動力源	427	1)プロフィール	469
4)思想世界観の形成過程と産出	429	2)定番と変則	471
5)哲学文化	431	3)神棚と鏡	472
二章 当該創造性の要点	435	4)縁起物と思想	473
1)対象の限定	435	5)日本文化原論・執筆の軌跡	478
2)領域観（生命観・人間観・生態観）	435	写真	481
3)社会観の分析と導出	437	1)縁起物販売	481
4)共通性と相違性	438	2)縁起物展示	482
5)概念集約図	439	3)店舗外観	483
三章 哲学文化の生産性	441	4)樹木の成長、鳥の飼育	484

あとがき 486

1)普遍的不変性 486

2)不完全性と完全性 486

3)幸福感と真の永続思想 487

書籍目録

大項目	中項目	ページ数	価格	執筆日	発行日 発行所 ISBN
はじめに	入門編 バラエティー編	A5 55p A5 28p	0 円	2011. 12	978-4-9906416-0-3
真なる調和への道 シリーズ	I 生存と自由の拡大	A5 71p	480 円	2012. 2	2017. 3 美粋書房 978-9906416-1-0
	II 健全性	A5 93p	520 円	2012. 3	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-2-7
	III 人類の教科書	A5 245p	650 円	2012. 5	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-3-4
	☆取り纏め版	A5 43p	400 円	2012. 7	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-4-1
活動の研究 シリーズ	I 活動の研究	A5 138p	430 円	2012. 10	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-5-8
	II 活動の研究	A5 30p	320 円	2012. 11	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-6-5
	III 活動の研究	A5 41p	340 円	2012. 12	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-7-2
	☆活動学	A5 86p	480 円	2012. 9	2017. 3 美粋書房 978-4-9906416-8-9
日本文化原論 シリーズ	I 神からのブラボォー	文庫 311p	760 円		2014. 5 ブイツーソリューション 978-4-434-18854-1
	II 七色の虹の架け橋				
	一編生産性の具象	A5 60p	380 円	2014. 5	2017. 3 美粋書房
	二編主体	A5 49p	380 円	2014. 6	2017. 3 美粋書房
	三編人間学の要諦	A5 75p	430 円	2014. 7	2017. 3 美粋書房
	四編集約編	A5 72p	470 円	2014. 8	2017. 3 美粋書房
	五編総論	A5 79p	480 円	2014. 9	2017. 3 美粋書房
	六編基礎	A5 57p	430 円	2014. 10	2017. 3 美粋書房
	七編活動観念	A5 49p	430 円	2014. 11	2017. 3 美粋書房
	八編主体性学	A5 56p	450 円	2014. 12	2017. 3 美粋書房
	九編生産原理	A5 35p	380 円	2015. 1	2017. 3 美粋書房
	十編動性概念	A5 50p	430 円	2015. 2	2017. 3 美粋書房
	十一編真理の探究	A5 69p	460 円	2015. 3	2017. 3 美粋書房
	III 洗練集約版	A5 80p	793 円		2017. 2 美粋書房
	IV 人類永続への方途	A5 40p	880 円		2017. 2 美粋書房
	V 永遠の動態という 静態原理	A5 168p	1145 円		2017. 3 美粋書房
目録	全著作の経過と体系	A5 44p	570 円		2017. 3 美粋書房

沿革

1)プロフィール

1-1 氏名

文化活動家 横山俊一(よこやましゅんいち)



幼少の頃より縁起物制作と販売に約 35 年間従事し、その間に会社勤務を 8 年間経経ながら、平成 14 年(2008 年)1 月に縁起物制作を専業にして約 10 年経過し、平成 23 年(2011 年)12 月頃から文化論の執筆が習慣となりました。平成 26 年(2014 年)5 月に、「日本文化原論 真なる調和への道神からのブラボォー」を出版し令和 4 年 2 月(2022 年)に「日本文化原論 永続思想主性学 真なる調和への道 七色の虹の架け橋」と題し、概ね文化体系が整い人様に広くご案内を進めて良いものと考えました。祖父母や両親は既に他界しましたが縁起物作りの精神性は持続し今日に至ります。三世代の活動成果をご覧くださいますと幸いです。

年月		縁起物 制作販売	会社 勤務	文化論 執筆
1970.4	出生			
1977.		手伝い		
1992.7			金融業	
1997.11			業務コンサル	
2002.1		専業		
2012.3				美粋書房
2014.5				神からのラボオー
2019.1				主体性学

1-2 沿革

明治 38 年 祖父春吉 創業羽子板、だるま、雛人形、飾り熊手等の縁起物制作。昭和 45 年 4 月 5 日 埼玉県新座市で、父俊春母キクエの間に生まれる。

1-2-1 家族構成 両親と姉

父と母は、子供の名前に「恵美子、美代子、正子」「俊一」と付けた。美に恵まれる子、美に代わる子、正しい子、という理想の変遷する姿が見られる。自己の成長と子供の名前に密接な相関が見られる。自己自体の分身として子供と名前を表し理想と方法が投じられる。

1-2-2 学歴

昭和 58 年 3 月 大和田小学校 卒業

昭和 61 年 3 月 新座市立第二中学校 卒業

昭和 61 年 4 月 二松学舎大学付属高校入学、昭和 62 年 12 月退学

平成 4 年 5 月 大学入学資格検定合格

平成 8 年 4 月頃より中小企業診断士試験の専門校に 1 年程度通う

平成 10 年 9 月 産能短期大学能率科通信課程 卒業

平成 15 年 9 月 日本大学法学部政治経済科通信課程 卒業